

澤本　長俊 議員

放課後児童クラブ（学童保育）の実施体制及び質の向上について

問　学校の空き教室など、校内設置の有効性について、どのように考えているのか

答　安全性の高い環境が確保できることは、有効な視点であると考えています

学童保育の需要は高まり続けており、子どもたちが放課後を安全かつ豊かに過ごせる場を確保することは、緊急かつ重要な課題と考える。子どもの数が減り、学校の教室に空きができているので、そこを学童保育に利用できれば、学童保育施設までの移動がなくなり、交通安全面でも、また不審者などに対する安全も確保できるのではないかと考える。

問　学校の空き教室など、校内設置の有効性について、どのように考えているのか。

答　教育指導部長

交通面や防犯面のリスクを軽減できること、また耐震化された学校施設を利用することで、安全性の高い環境が確保できることは、有効な視点であると考えています。

問　保幼小中の連携推進の中に、学童保育も組み込み、情報共有、連携の体制づくりが必要と考えるが考えを問う。

答　子ども未来部長

幼児期から中学校まで切れ目なく支えるためには、こども園、小中学校さらには学童保育所が相互に情報共有や連携することが重要だと考えています。

問　学校現場におられた教育長に学童保育についての考え方を問う。

答　教育長

学童保育は、子どもたちの健やかな成長のために、重要な役割を果たしていただいていると認識しています。



問　学童指導員の処遇改善及び評価向上、また人材確保についてどのように考えているのか。

答　子ども未来部長

学童指導員の処遇改善は、人出不足を解消し、子どもの安全安心な居場所の確保のためにも不可欠な課題であると考えています。職員の確保には各運営団体とも苦慮されています。市において学童保育所の仕事を発信し、人材の掘り起こしや、評価向上につなげていきたいと考えています。